

# トモコママメスープの味

作・河田唱子

## ■設定

現代、日本。ジャパンシステムズ社オフィスビルの地下。

## ■登場人物

吉田（よしだ） 正社員。 23歳。  
八澤（はちさわ） バイト。 33歳。  
佐々木（ささき） バイト。 40歳。  
高鹿（こうろく） バイト。 35歳。  
清瀬（きよせ） バイト。 30歳。  
駒井（こまい） バイト。 33歳。  
牧野（まきの） 派遣。 25歳。  
祖父江（そふえ） 派遣。 25歳。  
浜岡（はまおか） 正社員。 30歳。  
宇部（うべ） 正社員。 吉田の上司。 33歳。  
金塚（かねつか） 正社員。 吉田の前任者。 取引先と大喧嘩し、休職中。  
熊谷（くまがや） ヤクルトレイダが男性。  
時枝（ときえだ） 吉田の恋人。

暗闇に、宇宙を感じさせる音楽。  
スポットライトの中、吉田美桜（みお）。  
パジャマを着ている。

吉田　　ここは・・・いったい、どこなんだ・・・。  
宇部（声）吉田・・・吉田吉田吉田さん・・・（エコー）  
吉田　　この声は・・・

スーツ姿の宇部、浮かび上がる。

吉田　　宇部さん！  
宇部　　吉田美桜さん。  
吉田　　はい！  
宇部　　我がジャパンシステムズは、短い期間で爆発的に大成長を遂げたITベンチャー企業だ。それが可能になったのは、わが社の従業員たちの献身があったからこそです。従業員たちこそ、我が社の誇りだ。  
吉田　　おっしゃるとおりです。  
宇部　　僕は君を、とあるチームのリーダーに、大抜擢した。他の会社じゃ、こんな大胆な人事はしない。我が社だからこそ、できたことだ。  
吉田　　わたしが、リーダーですか・・・！  
宇部　　不安そうだね。  
吉田　　あの、何故わたしなんでしょうか。  
宇部　　君は選ばれたんだ。僕がそうだったように。  
吉田　　わたしに務まるかどうか、  
宇部　　自分を信じるんだ、すべては信じることから始まる。  
吉田　　・・・わかりました。未熟者ですが、頑張ります！  
宇部　　うん。まず着手してほしいのは、ある大事な取引先との大きな仕事だ。内容は現場で伝える。  
吉田　　承知いたしました。わたしのすべての力を注ぎます！

宇部 期待しているよ。信じるなら、可能性は無量大だ。ところで、吉田さん。どうして君は、パジャマなのかな。  
吉田 えっ!? あ、ほんとうだ!  
宇部 君は仕事をなめているのかな?  
吉田 ち、違うんです、これは!  
宇部 なにが違うんだ! 君はいま、間違ひなくパジャマを着ているじゃないか!  
吉田 申し訳ありません! わたしもどうして自分がパジャマなのか、  
宇部 いい訳など聞きたくない! お前は、仕事をなめている、クビだ。クビ!  
あやしげなサーカス団に売ってやる!

あやしげなサーカス団の人々出てくる。

団員1 Ласкаво【ようこそ】  
団員2 просимо в【わたしたちの】  
団員3 наш цирк【サーカスへ】  
吉田 いやです!  
宇部 200円で。(団員1、200円渡す)  
吉田 安!  
団員1 спасиби!【毎度】  
吉田 (サーカス団寄ってくる) うわあ奇るな・・・触るな!  
団員1 (吉田のまわりを回りながら) Ромл вона сердитсья【いつでも歓迎します】  
吉田 まわるな!  
団員2 В и завжди вітаютьсья【彼女はなぜ怒っているんだ】  
団員3 (肩をすくめて) я не знаю,【わかりませんな】(定位置に戻る)  
団員達 フウ・・・(かなしそうに吉田を見る)  
吉田 国に帰れ!・・・何その目つき!  
宇部 その曲がった根性、一から鍛えなおしてもらえ!  
吉田 もうこの年じや無理ですよ!  
宇部 無理って言うな! やればできる!  
吉田 できません! わたしは会社員なんです! どうかサーカス団には売らないでください! すぐに着替えてきます! 申し訳ありません! 申し訳ありません!  
申し訳ありま

大音量で時計のアラーム音。  
宇部とサーカス団の幻影消える。

時枝（声）美桜ちゃん、美桜ちゃん、美桜ちゃん！

吉田と時枝がずるずると同棲しているマンション。  
時枝、眼鏡にTシャツに、トランクス。

時枝 大丈夫？

吉田 あ。まただ。仕事で緊張するとよくサーカス団に売られそうになる夢みる  
何時いま？

時枝 7時ちよつと前。

吉田 やべ。（支度はじめる）

時枝 そっか今日からだ。すごいな美桜ちゃん、ジャパンステムズのチームリーダ  
ーなんてすごいな。

吉田 ……、自信ないよ。

時枝 美桜ちゃんなら大丈夫だよ。いいリーダーになれるよ。いちばん美桜ち  
やんのこと知ってる俺が保証する。……美桜がんばれ。

吉田 時枝くん。

時枝 美桜がんばれ。

吉田 時枝くん。

時枝 美桜がんばれ、がんばれ、がんばれ。

吉田 時枝くん、時枝くん、時枝くん。

ふたり、手を繋ぎ輪になってクルクルと回る。

吉田 ありがとう時枝くん、これやると元気です。わたしががんばるよ。いいリ  
ーダーになる。いいチームにする。

時枝 よかった。あと美桜ちゃん。俺言わなきゃいけないことある。

吉田 （ある期待）……、え？なに？

時枝 俺仕事やめた。

間。

吉田 ……へえ。

時枝 リアクション

吉田 ……、そうなんだ。

時枝 俺ががんばって仕事探すから。ちゃんとするから。

吉田 うん。そうだね。がんばれ。どけ。

時枝 美桜ちゃん！美桜ちゃん怒ってる！美桜ちゃん！

美桜、時枝をかわしながら、

パジャマからスーツにバリバリと着替える。

時枝 今日お買い物俺行ってくるよ、お夕飯なにがいい？

吉田 ちくわ。

時枝 ちくわね、(メモる) あしたの朝ごはんは？

吉田 ちくわ。

時枝 ちく、わ、と、(メモる) ほかにほしいものは？

吉田 ちくわ。

時枝 わあーちくわかちくわがいっぱいだ(メモる) 今日お天気どうかな？

吉田 ちくわ。

時枝 ちくわでえええす(メモるそしてメモをぶんなげる)(支度している吉田を見て

いるが不意に) 5分、3分、いや1分ベッド戻ろ。

吉田 は？

時枝 ささっと。ぱぱっと。手短かに、要点だけをかいつまんで。

吉田 もういくんですけど。

時枝 イッてからいきなよ。

吉田 やだよ。突然つまんねーこと言ってんじゃねえよ。

時枝 じゃあ口で、ちやちやっと、サクサクっと。

吉田 なんでだよ調子にのんなよ、邪魔してえのかよ死ねよ。サクサクってお前の

あれはコンビニのスナック感覚かよ。

時枝 美桜ちゃん。品がないよ。

吉田 わかった。うん。わたし、時枝くんの分もがんばるわ。だから納得いくまで探して仕事、

時枝 美桜ちゃん、嬉しいけど目の奥がグルグル渦巻いているよ。ほんとうに大丈夫？大丈夫だよ！・・・うわあああああああ！・・・大丈夫だからよ！

時枝 ほんとうに？だからよって何？

吉田 だからよなんて言っただけ

時枝 あと、今叫んだよね？

吉田 叫ぶわけがない、文脈的に。

時枝 でも。

吉田 (叫ぶ) 叫んだら、その人は頭がおかしいから！

時枝 ・・・ならいいよ。

吉田 もう行くわ。

時枝 美桜ちゃんにとって、無職の俺は、価値のない存在？

間。

吉田 そんなことないよ。

時枝 死のっかな。

吉田 まじやめて。

外。吉田、スマホ鳴る。

吉田 なーに、母さん。

吉田 母 美桜、元気？お誕生日おめでとう。

吉田 ありがと。いまから会社なの。夜かけなおすわ。

吉田 母 それにしても仕事ばかりして、あんたいつ時枝くんと結婚するの？同棲なんて、何もいいことないからね！そろそろケジメを

吉田 母さん、電車乗る、またあとで。(切る)

地下鉄の音。

吉田 (電車にむかって)ちくわーちくわーちくわー！今日わたし誕生日なんだけど！  
そろそろプロポーズされるのかと思ってたんだけど！なに無職になってんだ  
よ！ああああああちくわああああー！

吉田を乗せた電車が走る。

吉田 これは、夢なんかじゃない。仕事のある彼と、仕事のない彼は、同じ彼だろうか。それは、愛に影響はあるだろうか。影響がある場合、その愛は偽物なんだろうか。当然のごとく思い描いていたすてきな未来も、いまやぼんやりしてきて、そうこうしている間にも、電車は走り、駅に滑り込み、改札を出れば…、ジャパンシステムズのビルが聳える。(見上げる)怖い。帰りたい。だけど。だけで。こんなわたしに、期待してくれたたひとがいる。そうわたしには仕事があるじゃないか！…やる…やる…やるぞ…いいチームにするんだ、やるぞ、やっちゃうぞ…、こう何年かサラリーマンやってりや自分のおだてかたも身についてくる！プライベートの顔を畳め、おりゃあああああ！！(突入)

ジャパンシステムズ社の1Fエレベーターホール。

総務、登場。赤いストラップのIDカードを首からさげている。

吉田 おはようございます！吉田！です！

浜岡 怒鳴らなくても聞こえますよ、吉田さん。総務の浜岡です。IDカードは常に首からさげるようにしてください、規則です。

吉田 あ、あああ、すみません。

吉田、赤いストラップのIDカードを取り出し首からさげる。

浜岡

ストラップの色で、従業員のステイタスが分かるようになっていきます。

赤が正社員、黄色が派遣社員、青が契約社員、黒がアルバイトです。い

ちいち口頭で確認するのは手間ですから。さあこちらへ、今日は宇部さんに、

吉田            ご案内するように言われています。  
                  はあ。

エレベーター。

吉田            引き継ぎってどうなってます？  
浜岡            宇部さんからも聞いていませんか？前任の金塚は現在、休職中です。  
吉田            えっ？  
浜岡            かれこれ一ヶ月ほど出社していません。  
吉田            理由は？  
浜岡            わたしの口からはちょっと。  
吉田            なんですかそれ。

エレベーター到着音。

吉田            あれ、オフィスは20階では？  
浜岡            今日はこと伺っています。  
吉田            ここって、  
浜岡            そうです、ゴミ捨て場です。  
吉田            え？・・・え！！？  
浜岡            （無言でポンと吉田の肩をたたき、頷く）  
吉田            いやポンじゃねえよ  
浜岡            みなさん。新リーダーの吉田美桜さんです。

地下のゴミ捨て場。  
                  バイトたち5人、八澤、佐々木、清瀬、駒井、高鹿。  
                  全員黒いストラップ。

吉田            これで・・・全員？  
浜岡            はい。インターネット通販部のみなさんです。では、わたしはこれで。



引き続き、ゴミ捨て場。

吉田とバイトたち。

吉田

吉田です。ジャパンシステムズの事業部の中で唯一、インターネット通販部は厳しい数字が続いていると聞いていますが、なんとか盛り返したいと思っています。はじめてなんです。こんな大役。だけどもみなさんと一緒に仕事をしていけること、とても楽しみです。自分はこのなかで一番の新人ですが、精一杯がんばらせていただきますので、みなさんのご協力をお願いします。どうぞよろしく願います！

駒井

………（高鹿を見る）。

高鹿

………（清瀬を見る）。

清瀬

………（佐々木を見る）。

佐々木

………（八澤を見る）。

八澤

………（佐々木を見返す。そして、拍手する）。

五人のバイト、パラパラと拍手。

吉田

えー、（咳払い）、早速いろいろ聞いていききたいんですが、どういう状況ですかこれ？

清瀬

（ため息のような笑い） どういうって。

佐々木

あ、わたし佐々木です、八澤さんが説明を。

八澤

八澤です、ジャパンシステムズには7年います、この中では一番長いです。金子さん不在の間、リーダー役を代行していました。（清瀬と駒井に）あれ、持ってきて。

清瀬

（駒井ぼーっとしている）おい。

高鹿

駒井さん。

駒井

えっ？あつ。はい。

高鹿

（行く方向が）逆逆。

駒井 はい。(駒井以外のアルバイトたちよくある風景として、笑う。)

高鹿 さっきの女の子が駒井さん、男の子が清瀬くんです。あたしは高鹿っていいます。

吉田 駒井さん、清瀬さんに高鹿さんですね。覚えました。

清瀬と駒井、大きなゴミカートを押してくる。

吉田 これは・・・？

八澤 順を追って説明します。金塚さんですが、ジャパンシステムズのインターネッ  
ト通販サイト立ち上げ時より、一番古くから付き合いのある豆農家の田中さん  
とトラブルりました。大トラブルです。それが原因かはわかりませんが、現在  
休職しています。

佐々木 まあ、明らかに原因それだけどねえ、はは。

吉田 豆農家って、豆を専門に生産してる農家ってことですか？

八澤 はい。田中さんは、うちのインターネット通販サイトを立ち上げたときに、  
一番先に出品してくれた、会員第一号なんです。立ち上げのときはなかなか会  
員が増えなくて、社長の親友の田中さんに入会を頼んだんです。

しかし最近、商品の売れ行きが伸びず、田中さんは悩んでいました。そ  
のため一度顔を付き合わせてうちの人間と話をしようと、田舎からわざわざ来  
社してくれたんです。金塚が対応し、わたしも同席しました。最初は穏やかに  
話していたんですが(次第に感情をおさえられないかんじで)次第に田中さん  
と金塚の話はヒートアップしました。「こんなに丹精込めてつくった豆が売れ  
ないなんて、おたくのサイト運営はどうかしているんじゃないか」と言った田  
中さんに対し、自分の不甲斐なさをなじられたと受け取ったノイローゼ気味の  
金塚は、「そもそも豆なんかそんなに売れるモンでもねえし！」と逆ギレし、お  
みやげにいただいた最高級のヒヨコ豆を、あの金塚は、田中さんの目と鼻の先  
で、床にぶちまけてしまったんです！

吉田 なるほど・・・、最高級。

八澤 ヒヨコ豆は、日本の風土だと、とても栽培がむずかしいんです！いわば田中さ  
んは、ヒヨコ豆のパイオニアですよ・・・そんな方のご厚意をあの金塚は！  
わたしくやしいです・・・！金塚あ！

吉田 はあ、・・・あ、「さん」つけましようか。

八澤 え！？

吉田 途中から金塚って呼び捨てに。

八澤 すみません、この一ヶ月を思い出すと、感情がおさえられなくて。  
吉田 大変だったんですね……。で、それが……。これ。

全員、ゴミカートを見つめる。吉田、ゴミカートの蓋を開ける。  
ぎゅちり詰まった豆。

吉田 わあ、詰まってますね……。豆。

八澤 たくさんいただいたので、全従業員にいきわたるようにと……。！

吉田 ええと、では、わたしは金塚さんに連絡をとって、豆農家さんには丁重にお詫  
びする、という流れですよね？

八澤 違います。選り分けなくてはならないんです。

吉田 選り分ける？

清瀬 だから豆だよ、豆。

吉田 ん？

清瀬 全部な。

高鹿 いたんでる豆と大丈夫な豆を選り分けるんです。いまのは一ヶ月前の話で。豆  
はいたんできているんですよ。

吉田 ん……。え？

佐々木 まあ、そういうリアクションになるよね。初日にこんな、ねえ。

吉田 ちよつと、話が見えないですね。ヒヨコマメってよく知らないんですが、豆つ  
てそんなはやくいたみます？

駒井 ゲロ吐いたんです。金塚さん。豆の上に。ノイローゼだから、怒りのあまり。